

R-2-7

北信地域における頭頸部の腺様嚢胞がんの罹患と治療の実態

瀧口 知彌 西野 善一

金沢医科大学 医学部 公衆衛生学

背景と目的

腺様嚢胞がんは主に唾液腺でみられる悪性腫瘍である。しかし、唾液腺以外の部位を含めた罹患の実態に関するわが国での報告は少ない。本研究では北信地域における頭頸部の腺様嚢胞がんの罹患と治療の実態について報告する。

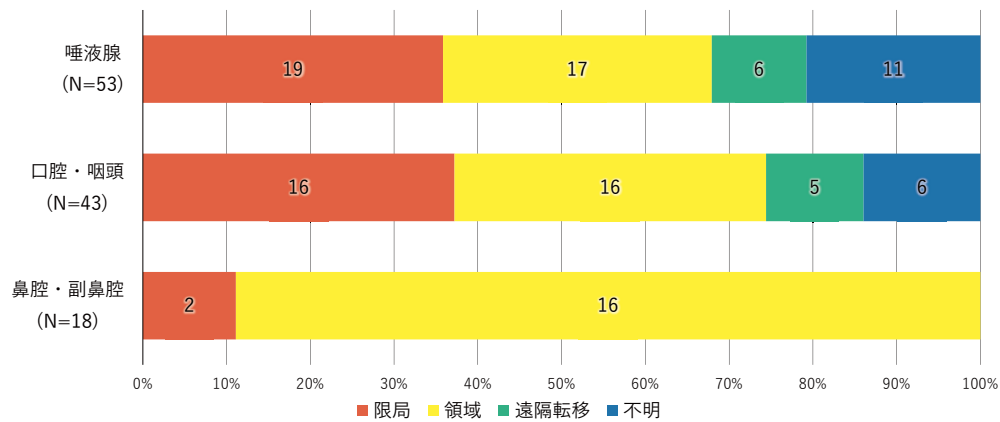
方法

北信4県のがん診療連携拠点病院等22施設の院内がん登録データより、2010年から2017年に診断された悪性新生物症例のうち、ICD-O-3の形態コードが82003のもので、かつ自施設で初回治療が施行されたものを抽出した。頭頸部を「唾液腺（C07, C08）」、「口腔・咽頭（C00 - C06, C09 - C13）」、「鼻腔・副鼻腔（C300, C31）」に分類し、詳細部位別、年齢階級別の罹患数と罹患率、および詳細部位毎の進展度、治療法について解析を行った。

結果

2010年から2017年に診断された頭頸部の腺様嚢胞がんの症例数は125例であり、うち唾液腺は42.4%、口腔・咽頭は34.4%、鼻腔・副鼻腔は14.4%であった。唾液腺と口腔・咽頭では限局と領域の割合が同程度であるのに対して、鼻腔・副鼻腔では全体の88.9%が領域であった。いずれの部位においても手術単独もしくは手術と放射線治療の併用例が多かったが、口腔・咽頭では放射線治療と化学療法を併用した症例の割合、鼻腔・副鼻腔では放射線治療単独の症例の割合が比較的高かった。

進展度の分布



部位別の治療方法

	唾液腺		口腔・咽頭		鼻腔・副鼻腔	
	(N)	(%)	(N)	(%)	(N)	(%)
手術のみ	14	26.4	14	32.6	4	22.2
手術+放射線治療	25	47.2	11	25.6	5	27.8
手術+放射線治療+化学療法	9	17.0	3	7.0	2	11.1
放射線治療のみ	0	0.0	0	0.0	3	16.7
放射線治療+化学療法	1	1.9	6	14.0	2	11.1
その他の治療方法	2	3.8	5	11.6	0	0.0
治療なし	2	3.8	4	9.3	2	11.1

結論

北信地域において頭頸部の腺様嚢胞がんの原発部位は唾液腺に次いで口腔・咽頭、鼻腔・副鼻腔が多かった。鼻腔・副鼻腔では限局の割合は少なく、治療方法は手術単独、もしくは手術と放射線治療が併用された症例が多かった。